

# 「不易流行」

よき伝統を守りながら(不易)  
進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって  
「理想」を創造する

## 「関係人口」がもたらすもの

町報こうふ平成29年12月号に次のとおり書かせていただきました。  
「江府町を持続的に発展させるためには、江府町ふるさと大使の皆さんを始め、奥大山・江府町に関心を持つてくださる人とのつながりを広げ、深めていくことが重要です。町外からヒト・モノ・カネ・アイデアを地域にもたらすために、『関係人口』を今後一層、増やしていきたいと考えています」と。「関係人口」を増やすための方策の一つとして、江府町観光協会にお願いして、「奥大山ファンクラブ」を立ち上げてもらいました。奥大山江府町のことが好きな人なら誰でも入会でき、奥大山へ来て・見て・関わって・応援してくれるファンの輪と一緒に広げることが目的とされています。ファンの特典の一つとして、町内の加盟店でお得なサービスが受けられることになっています。江府町に来ていただいて、観光、宿泊、飲食、土産物の購入等の経済的な

効果も期待したいところです。

さらに、移住定住やイベントに関する情報の提供、アイデア募集などを通じて、奥大山江府町のこともっと好きになっていただけるような仕組みにしたいと考えています。

す。江府町に暮らしてみたいと思っただけでいいなら、ぜひ理想入はできます。目指せ！3000人。まずは、そこを目標にしたいと思えますので、お知り合いの方に教えてあげて欲しいと思います。(奥大山ファンクラブ専用ホームページは左記のアドレスからアクセスしてください)  
(<http://okudaisenfan.club/>)



▲入会するとオリジナルカードがもらえます

# 「3000人の楽しい町」プロジェクトチーム活動報告

「みんなのでつくる地域の支え合い自然に助け合える江府町をめざして」。7月28日、連日の酷暑、そして台風十二号の近づく中、支え合いのまちづくり講演会を行いました。

当日は、江府町の高齢者の現状と、それに対する取り組み、プロジェクトチームのこれまでの活動と今後の方向性などをお話しした後、冒頭の演題でご講演をいただきました。

講師は、公益財団法人さわやか福祉財団の高橋望さん。「住民が主役となり、いきいきと暮らせる社会」「どのような状態になっても、地域のつながりが保たれ、役割の持てる社会」づくりが日本全体に広がっていくことを願い、日々、精力的に各地を飛び回っておられます。お話の中でも、日ごろの活動から得られた様々な地域の「支え合い」事例について紹介され、参加されたみなさんのアンケートでは、「他地域の活動が参考になった」「具体的な事例が聞けてよかった」などの感想をいただきました。先月のこの欄でも触れましたが、これからの地域づくりのキーワードは「生きがい」「役割・出番」そして「つながり」です。つなが

りの中で、お互いが認め合い、誰もが役割と出番を持つことで、生きがいが生まれます。生きがいと言うと、高齢者のことと考えてしまいがちですが、世代を超えて、みんなが自然に集まり、受け入れ合うことで、子どもにも、若者にも、地域での役割ができます。誰かが一方的に誰かを支えるのは大変なことですが、こうして、自分のできることで地域に参加する先には、きつと「感謝される喜び」と「楽しさ」があるはず。高橋さんのお話の事例に登場するみなさんは、住む地域の課題を共有し、できることからやってみようという共感を持って、とてもいきいきと輝いておられました。

今、二年目に入った集落総合点検が40集落で次々と開催されています。江府町には、古くから集落内で当たり前のように助け合いが息づいています。高齢化や人口減少など深刻な課題はありますが、自分らしい生き方を大切に、支えて、支えられて、共に笑顔で暮らす…。いきいきと輝く笑顔の輪が広がるように、まずは身近な集落から『自然に助け合える江府町』を始めませんか？

動画で町報こうふ!



今回の講演会の様子は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。